

文京区版ひきこもり総合対策における相談支援体制について

1 目的

「8050問題」が大きな社会的な問題となり、ひきこもり状態にある本人やその家族への支援がますます重要となる。

そこで、区が実施主体となり、複合的な課題に対して一元的に対応することのできる総合的かつ包括的な関係機関との連携による相談支援体制を構築する。

2 事業概要

これまで、ひきこもり等自立支援事業（STEP）を実践してきたところであるが、支援対象年齢を、40歳以上全年齢に拡大し、中高年層のひきこもり対策を強化する。併せて、児童生徒の不登校からひきこもりへのリスクを視野に入れた教育と福祉との連携、さらには、自立相談支援事業のほか、社会福祉協議会や高齢者あんしん相談センター等との連携を強化し、属性や世代を問わない全世代を対象とした総合的な相談支援事業を行う。また、令和2年4月に、福祉部生活福祉課に（仮称）文京区ひきこもり支援センターを新設し、ひきこもり相談支援にかかる地域と行政との関係機関連携の軸と位置づけ、相談支援に関する情報の一元化と相談支援窓口の明確化を行うとともに、（仮称）ひきこもり支援関係機関連絡会議を定期的を開催し、多職種・多機関による情報共有を図り、必要に応じてケースカンファレンスを行うなど、一元的な対応を行う。

3 相談支援体制図

裏面参照

4 今後のスケジュール（予定）

令和2年2月	2月定例議会報告
3月	関係機関への事業周知等
4月	事業開始

文京区版ひきこもり総合対策 相談支援体制

- 令和2年度 方針① 窓口の明確化と情報の一元化 「相談をもらさない」
 方針② 相談支援体制の強化 「断らない、属性や世代を問わない相談支援体制づくり」
 「本人や家族の小さな変化を大事につながり続ける」

